

十月例会御案内

(平成二十六年・第六四七回)

公益財団法人協和協会

http://www.kyowakyoikai.or.jp

○御案内

十月三十日(木)正午～二時半

衆議院第一議員会館 地下一階・第六会議室

講師 最近の政治情況について分析し解説する!

講師 高橋利行先生(政治評論家、元読売新聞解説部長・新聞監査委員長・編集局次長)

日本は、小泉内閣以降、短命政権が続いて来ただけに、第二次安倍晋三内閣が発足してから、総理御自身でも五十数カ国を訪問して積極外交を展開され、また、各閣僚も次々と政策を打ち出して、積極仕事をされる明るい政権のイメージがあり、国民も大いに期待を寄せてまいりました。しかし、この九月に発足した改造内閣において、これから本格活動という時に、新聞僚二名が辞表を提出するにいたり、政局は予想外の展開となりました。邦家のためには、なんとか、この難局を切り抜けてほしいところです。

それだけに、ここは、政治評論家の高橋利行先生に、この政局の分析・解説をいただいで、一同にて、意見交換いたしたいと存じます。重要課題、奮っての御参加お待ち申し上げます。

(清原記)

◎当日の会費

四千円(昼食代ほか。十月二十八日火曜までに、出欠の返信をいただきます)

当日連絡先

08019292126203・重田

□御報告

去る九月二十九日の月例会は、日本は世界一の長寿国になったものの、反面として認知症の発生率も世界一で、当初は認知症の原因が分かりませんでした。近年、その原因も解明されつつありますので、認知症研究の権威でいらっしゃる中谷一泰先生に御講話をいただきました。その要旨は、まず、認知症とは「記憶力や判断力が年相応以上に低下し、日常生活に支障が出る症状をいう」と定義され、日本では六十五歳以上が多い高齢化社会だが、それにしても、アメリカの二倍、東アジア人の三倍に達しており、このまま行くと、二〇三〇年には、認知症患者が七〇〇万人(九〇〇万人)となり、入院・治療に国は三〇兆円以上を必要とする勘定だ。認知症の原因としては、アルツハイマー病が六〇(七〇)％、パーキンソン病が一〇(一〇)％、脳血管性が約二〇(二〇)％だが、私どもの研究により、パーキンソン病はαシヌクレインなる物質異常によるものであり、アルツハイマー病はアミロイドベータなる物質が脳内の神経細胞を死滅させることによることが分かって来た。その結果、認知症の治療法も進んできているが、根本的治療

薬はまだない。それでも、いくつかの治療薬・予防薬が開発され、現在、症状を一次的に改善し、進行を遅らせることができるようになった。しかし、それには、認知症発症後、できるだけ、早期の治療に効果がみられるので、軽度認知症のうちに、専門医を訊ねてほしい。

そして、アルツハイマー病の治療薬、パーキンソン病の予防薬、脳血管性認知症の治療薬を、それぞれ具体的に挙げられた。又、認知症にかからないようにする予防法としては、生活習慣を改善することも必要だ。それには、○煙草をやめる。○肥満にならないようにする。○身体運動を活発にして動脈硬化を防ぎ、血の巡りを良くして、脳の縮みを防ぐ。○精神的活動を活発にし、人と接する機会を増やし、会話を心がけ、計画を立てて新しいことを覚えて、脳を鍛える。○野菜・果物・魚を多く食べ、肉食を少なめにする。特に、煙草、肥満は、認知症を発症・進行させるばかりでなく、心筋梗塞、脳卒中、癌を発症させる率が高い。私ども研究者も熱心に研究しており、認知症の発症原因も次第に分かり、認知症を治せる一歩手前まできているが、国民の皆さんには、以上述べたことに留意していただきたい、と結ばれました。

(清原記)

▽当(公財)協和協会は「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正二郎元財務大臣。平成二十一年六月より会長代行として江口一雄元衆議院議員が就任。理事長は引き続き半田晴久が就任している。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっている。国会議員・同秘書は、随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百三十七本に達している。

事務局電話(03)3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎添付のハガキ又はFAXにて、十月二十八日(火)までに、事務局へ御返信をいただきます。

▼事務局FAX(03)3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

十月三十日(木)正午

出

欠

衆議院第一議員会館 地下一階・第六会議室